

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. 38 平成25年 (2013) 3月

CONTENTS

- 1～2 21世紀文明シンポジウム
「NPOと企業がともに創
る新しい市民社会」を開催
情報ひろば
- 3 平成24年度のひょうご講座
および21世紀文明研究セ
ミナーの開催結果について
- 4～5 高齢者の社会参画を
拡大するために
- 6～8 人と防災未来センター
MIRAI

21世紀の諸課題について幅広い観点で議論を
深める21世紀文明シンポジウムを2月12日(火)に
神戸ポートピアホテルで開催しました。

「NPOと企業がともに創る新しい市民社会」をテ
ーマに、約170人が参加。「ボランティア・セクター」
の新たな担い手として注目されている「社会的企業」
(地球規模の課題や地域社会が抱える課題に対
して使命感を持って挑み、「社会をよくする」を目標に
行動する「NPOのような企業」や「企業のようなNP
O」)が、社会に与えるインパクトについて議論を深
め、自律的な市民社会の形成について考えました。



冒頭、主催者あいさつの中で、五百旗頭真理事
長が「日本では、阪神・淡路大震災における138万人
のボランティアの活動以降、ようやくNPOが制度化さ
れ、社会的貢献をする者に対する社会的認知がで
てきました。新たな担い手が社会の最前線の重要
なテーマになっています。本日の講師、パネリストの
方々とともに、ご来場の皆さまにはすばらしい討議を
していただきたい」とエールを送りました。

基調講演では、早稲田大学商学学術院商学部
教授の谷本寛治氏が「ソーシャル・エンタープライズ
の可能性と課題～社会的課題に取り組む様々なス
タイル～」と題して社会的企業の現状と課題につい
て講演されました。谷本氏は、「社会的企業のミッシ
ョンとビジネスは簡単には結び付きません。ソーシャル・

「NPOと企業がともに創る新しい市民社会」を開催

イノベーションが必要です。分かりやすい仕組みをつ
くことで市場から支持が得られます。特に、社会的
課題に関しては『共感』が非常に重要です。ソーシャ
ルビジネスの普及には、消費者側の参加意識の醸
成が大事です。社会企業家が小さな成功体験を積
み重ねても、社会の側がそれを面白いと理解する目
を持っていなければ継続できません。一消費者とし
て、一投資家として、一地域住民として社会的意識
を育てていく土壌がなければ、社会企業家が育っ
ていくのは難しいのです」と説明されました。

後半のパネルディスカッションでは、まず、4人のパ
ネリストに事例報告をしていただきました。

岩附由香氏は、「ACEの日本での活動は、児童
労働を生み出す社会の在り方を見直し、行動を促
すことです。今回、ガーナのカカオ産業での問題に対
し、森永製菓と連携して『1チョコfor1スマイル』とい
うキャンペーンを展開しています。企業との連携によ
って、市場を通じて多くのメッセージを伝えることが
できます」と報告されました。

木田聖子氏は、「(株)チャイルドハートの経営理
念は、幸福追求型で地域を大事にする経営です。
地域全体で子どもたちの世話をする形態の保育施
設の復活に取り組んでいます。女性の社会進出や働
く女性を支援することが日本の閉塞感を打ち破る突
破口になると思います。認可外保育施設の規制緩和
の動きがありますので、待機児童の解消を進めたい
」と報告されました。

竹井智宏氏は、「被災地の起業率は、皆さん
のイメージとは異なり、全国平均の1.5倍あります。
MAKOTOでは、世のため人のため体を張る起業
家を応援するために、『コワーキングスペースココリ
ン』を開設しました。また、ウェブ上に寄付サイト『チャ
レンジスター』を開設しました。東北を起業家のパラ
ダイスにしたい」と報告されました。

早瀬昇氏は、「市民活動では多くの仲間、共感者
を得ることが大切です。例えば、ビッグイシューは雑



誌を140円で仕入れて300円で売っています。でも消費者は200円に負けろとは言いません。買うことの意味を伝え、消費者を支援的消費者化しているからです。ソーシャルビジネスの重要な意味は、参加者も当事者にあることにあります」と報告されました。

その後のパネルディスカッションでは、自分たちの活動を一般の方々にどのように説明していくのか、どのように支援者を増やしていくのか、寄付を頼む行為の重要性、企業形態を使い分ける工夫、頼れる仲間を増やすことの重要性、社会起業家の社会を変えたいとする自負心を生かすためには価値を共有するためのコンセンサスを得る作業が大事、などの意見が交わされ、議論が深まりました。

最後にコーディネーターの松原一郎氏が、「21世紀の働き方について考えるよい機会になりました。資本主義経済は今大きく変容しています。消費者として、生活者としてどのように生きていくのか、皆さんの実践からヒントをいただいた気がします。自らが当事者意識を持ち、責任ある主体的な市民として自分たちの市民社会をどのように担っていくか、そして、行政に頼るだけでなく何を行政や政治にさせるのかいうことを含めて、市民社会の在り方に対する方向性が示されたと思います」と締めくくり、閉会となりました。

□基調講演

谷本 寛治 早稲田大学商学大学院商学部教授

□パネリスト

岩附 由香 NPO法人ACE代表
木田 聖子 株式会社チャイルドハート代表取締役
竹井 智宏 一般社団法人MAKOTO代表理事
早瀬 昇 NPO法人日本NPOセンター代表理事
社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事

□コーディネーター

松原 一郎 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究調査本部政策コーディネーター
関西大学教授

情報ひろば

学術交流センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」 第14号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。

本号では、共生社会の原点として家族の在り方についての論考を掲載しています。B5判約80ページ。

■特集 新しい家族像と共生社会

- ・共生社会の原点としての家族—合意制家族モデルとは—
(甲南大学名誉教授 野々山久也)
- ・新たな家族的関係の構築—孤立を防ぐ支え合いをめざして—
(京都教育大学教育学部教授 杉井潤子)
- ・地元に密着している若い夫婦とこれからの婚活の方向性について
—兵庫県における子育て中の青年層を対象とした調査を中心に—
(関西大学社会学部非常勤講師 永田夏来)

- ・EUにおける高齢者と若者の共同生活の試み
—ホーム・シェアリングの国際比較に向けた調査報告—
(大阪大学大学院人間科学研究科助教 久保田裕之)

■トピックス

- 国際減災フォーラム「減災社会への連携」
／人と防災未来センター開設10周年記念(講演要旨)
- 第2回自治体災害対策全国会議(講演要旨)

▶発行=年2回

▶購読料=800円(送料別途)

※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

●申し込み・問い合わせ

学術交流センター

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

言葉を伝える

私に伝えた
誰かのように

あなたの本を
書いて
みませんか？

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001

当社の印刷センターは
ISO14001の認証を
取得しています。
新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7

印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。

☎078-362-7180

http://www.kobepn-printing.co.jp/

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

平成24年度のひょうご講座および 21世紀文明研究セミナーの開催結果について

1. ひょうご講座

ひょうご講座は、兵庫県内の大学や研究機関と連携し、兵庫県にゆかりのある知的資源を活用して、県民の皆さまに専門的な大学教養レベルの生涯学習の場を提供することを目的に開催しています。10回シリーズの連続講座で一つの科目、テーマを深く掘り下げ、幅広い視点から考察するのが本講座の特徴です。

今年度は「国際経済」「国際理解」「科学技術」「地球環境」「歴史」「伝統芸術」の6科目を9月～11月にかけて兵庫県民会館（神戸市中央区）で開講しました。

以前から人気の高い分野である国際分野では、2つの科目を開講しました。「混迷する世界経済の行方」と題して、先進国と新興国経済の構造・問題点を概観し、変貌するグローバル経済の在り方を考える講座を実施しました。次いで、「アジアの時代と日中関係」と題して、



急速な経済発展とともに、さまざまな社会問題に直面している中国と日本はどう付き合っていくべきか、幅広く考察する講座を実施しまし

た。共に受講者から活発な質問が飛び交い、学習意欲の高さを感じる白熱した講義となりました。

また、一部の講座では講義や質疑応答にとどまらず、講師陣とのディスカッションの機会を設けました。科学技術分野では「自然及び人工災害に接して：自然・科学・技術を考える」をテーマに、今日の科学技術社会にわれわれはどう向き合うべきか、さらに発展し続ける科学をどう認識するのか、一人一人が正しい選択をするための必要な専門知識を講義で学び、討論の場で疑問を直接、講師に問うことで、課題を共有しながら共に考えるこれまでにない広がりのある講座となり、受講者からも好評を得ました。

受講者は全体で約300人を数え、年齢層は60歳以上の方が8割を占め、そのうち2割が地域の高齢者大学等にも参加している方です。学習意欲に満ちあふれた方が多く、全体の6割が以前にも受講を経験した方です。受講者ニーズに応えた講座編成を行った結果、アンケートでは、8割以上の方に「満足」「ほぼ満足」と回答いただきました。コーディネーター教員が講義全体を取りまとめ、受講者の理解をより深めるための進行役として講義に携わったことも満足度を上げる一つの要因になったと考えています。

2. 21世紀文明研究セミナー

21世紀文明研究セミナーは、機構の研究成果を広く県民に還元するとともに、HAT神戸における国際関係機関等の集積を生かして、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題について幅広く議論を深めるため、高度で専門的な知識を求める研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等を対象として開催しています。

平成24年度は「安全安心」「共生社会」「防災」「環境」「芸術」の5分野で各6講座の計30講座を10月5日（金）から3月1日（金）までの5カ月にわたって実施しました。

このセミナーは、30講座の中から分野を限定することなく関心のある講座を受講できること、分野のテーマに基づいて各講座のテーマを設定しているため、特定の分野の講座を受講するとその分野についての理解を深めることができることおよび講義の後にディスカッションができることが特長です。

具体的には、安全安心分野では「安全安心・国際貢献」をテーマに関西広域連合の震災対応、三大震災の比較、広域災害支援におけるボランティアの役割などに関する6講座を、共生社会分野では「市民社会の担い手－共生への取組－」をテーマに疎住地域のガバナンス、地域の担い手の組織化、コミュニティーの結合原理などに関する6講座を、防災分野では「南海・東南海地

震を踏まえた広域災害の対応」をテーマに事前復興対策、津波防災対策、地盤液状化、災害時の情報伝達、こころのケアなどに関する6講座を、環境分野では「地域環境負荷の低減」をテーマに大気、水質、騒音、振動等の公害問題の現状と対策、途上国の地球温暖化問題などに関する6講座を、芸術分野では「美術館は試みる」をテーマに手で触れる美術作品、展示物の見せ方、横尾忠則現代美術館の特色、フィンランドのデザインなどに関する6講座を開催しました。

以上の30講座について、延べ1,312人の方に受講いただきました。とりわけ、防災分野は、5分野のうち最も受講者が多く、延べ387人の方に受講いただきました。また、防災分野の受講者には、企業や行政機関の方の割合が多かったのも特徴的でした。

各講座のアンケートでは、約9割の方から、今後の活動や研究に役立つ回答を頂きました。来年度も同じ時期に時宜にかなった内容を盛り込んで開催する予定です。



高齢者の社会参画を 拡大するために

主任研究員 加藤泰子



1. 調査研究のテーマ

私が当機構で取り組んできたテーマは「高齢者就業・社会参画の拡大」というものである。これは、2012年度の兵庫県の重点テーマの一つである。高齢者が就業や地域活動などを通じて社会への参画を拡大していくためにはどうすればよいかということに関して、国や兵庫県や地域で行われている取り組みとそれらに付随する課題等を挙げ、今後の方向性について検討し、最終的には県の政策提案に結びつけようという試みである。ヒアリング調査で現場から話を聞き、研究会を開催して有識者に意見や助言を求め、資料を分析しながらこのテーマの目的を追究してきた。

2. 高齢者の社会参画の意義

現在、総人口に占める65歳以上の割合を示す日本の高齢化率は23.3% (2011年)であり、漸進的に増加が続いている。この状態を位置づければ、日本は既に数年前から「超高齢社会」と名付けられる社会となっている。そして、さらに数十年もしないうちに高齢化率は40%を超えるという推計もされている。社会に出て間もない20代や、中堅世代の30～40代にとって高齢者とは、祖父母世代のことであり、親世代のことでもあるだろうが、世代はやがてシフトすることを考えると将来にわたる高齢者とは、今、若い世代も含めた全ての人々のことである。必ず自分の世代となってやってくるのである。しかも長寿化によって高齢期は人生の3分の1近くを占めるまでになった。

このように個人の側から見ると、高齢者の問題は他人の問題ではなく、自らのライフステージの大きな部分の問題であり、人生後半の生活の質を左右し得る問題である。一方で社会全体から見ると、高齢者世代に偏った人口構成の変容は、労働力の確保や社会保障制度の運営上に危機が生じるということであり、社会の安定の面から何らかの対策を講じていく必要に迫られている問題である。個人にとっても社会全体にとっても、超高齢社会の中で高齢者が生きがいを持って社会に関わり続けていくための可能性を拡大させることに真剣に向き合っていかなければならないのである。

3. 高齢者の社会参画の方向性

調査研究では高齢者の社会参画を3つの入り口から見てきた。その1つ目は仕事を通じての参画であり、2つ目は地域活動を通じての参画、3つ目は生涯学習等を通じての参画である。1つ目の仕事には、雇用される形と、任意就業や起業や

有償ボランティアといった、いわゆる「生きがいしごと」がある。2つ目の地域活動には地縁団体やNPO組織などでのボランティア的な活動がある。3つ目の生涯学習等を通じての参画とは高齢者大学やさまざまな教養講座・実践講座などの学びの成果を生かす活動である。

雇用の面では、高齢者雇用安定法をはじめとする高齢者世代に的を絞った政策が高齢者の雇用安定の大きな力となっている。2013年4月からは例外措置が廃止され、定年退職をした人のうち希望者全員の65歳までの雇用が段階的に事業主に義務付けられる。しかし、長期的な視野に立った高齢者の生活の質の向上や労働力需要の確保への取り組みは、現在足元を揺るがしている長びく不況による雇用不安から生じている問題とは相矛盾した方向性をはらんでいる。そのため、これに同時に対処していかななくてはならないジレンマが起きている。

高齢者の仕事の場の拡大を模索する中で、しばしば聞かれたのが、なぜ高齢者世代だけなのか、高齢者より若者の方に力を注ぐべきではないか、ということだった。いずれは誰もが高齢者世代の当事者となるにしても、この声が最近高まっているのは、上記の高齢者雇用安定法改正のインパクトによる若年者の雇用不安によるところが大きいだろう。この意味では、高齢者世代に限らず他の世代に特化した政策も含めて、一つの世代の問題を考える時には、同時代の世代間公平性にも敏感であらねばならないといえる。各世代がうまく自世代の強みを発揮して世代間で補完性を持てるような方向を追求していくことも必要である。究極的には特定世代のための政策や制度ではなく、男女を問わずあらゆる世代が社会参画を果たしやすい、多様で弾力性のある就業形態が普及し、それを自由に選択できる職場環境が構築されることが理想であると思われる。

雇用の場面だけでなく、その他さまざまな社会参画によってもたらされる高齢者の生活の質を考えると、その質を高めるのは高齢者が社会で役割を持ち、社会の担い手の一部となっているという意識を持てることではないだろうか。高齢者は一般に多くの場面でサービスの受け手として連想されやすいが、それ以上に何らかのサービスの提供者としての役割を持っている。あるいは潜在的に持っている。

この役割をよりいっそう生かすためには、高齢者が高齢者世代だけでなく、多様な世代とともに相互に関わって活動する「多世代包摂的」な環境を作っていくことも重要である。どの世代にも多様な世代の中でこそ際立つ役割があるからだ。

若者世代は新たな技術を容易に吸収でき、体力もある。中年世代は若い世代と高齢者世代のどちらの世代にも共感性を持ちやすい。社会に活力を添える子ども世代も抱えている。そして高齢者世代は忙しさに翻弄される世代に時間を提供できる。経験を語り、技術を伝え、後から来るものへの道標となることができる。それぞれの世代の強みを引き出し、他の世代のために利用していくような方向性が必要だ。

4. 高齢者の社会参画政策に求められるもの

高齢者の社会参画の可能性については、具体的には、超高齢社会の中で今後、生活支援分野への参入可能性が高まることや企業退職者等の専門知識を積極的に活かす方法について検討した。また、生涯現役というスタンスに転換するために就業形態の多様化や企業内外での能力開発、起業に関してはコンサルティングの充実など、長いスパンで社会参画し続けられる環境整備を促進することの重要性を検討した。調査の過程で、志の高い先進的取り組みが行われている企業や団体も少なくないことも知った。

高齢者の社会参画を意図したものとして、これまで行政を

中心に実にさまざまな取り組みが行われてきたことが明らかになったが、それらの情報が十分に高齢者に届いているとは言いがたいこともわかった。そのため、社会参画への入り口のわかりやすさの面では、部署やセクターごとの取り組みだけでなく、関係諸機関が横断的に情報交換や交流するためのネットワーキングの仕組み、ジャンルを問わない包括的な社会参画情報が高齢者の側にわかりやすく提供されるための情報バンク的な仕組み、それらが単にウェブ上や紙面上だけでなく、人を介して提供され、相談できる仕組み、そしてこの情報提供のプロセスにも高齢者自身が他の世代とともに協働参画できる仕組みなどの必要性を検討した。

高齢者の社会参画とは社会への貢献を含意するものであり、それが高齢者自身にとっても社会にとっても意義のあることである。どのようにしたら高齢者が自分に合った社会参画のための入り口を見つけやすいか、そして、どのようにしたらその活動を通して多様な世代と関わり、種々の役割を果たしやすいのか、そのための道筋を整備してわかりやすい方法で提示していくことが高齢者政策には求められるのではないだろうか。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

超・大河原邦男展

ーレジェンド・オブ・メカデザインー

ガンダム、ダグラム、ボトムズ… 全機 美術館に集結せよ。

主にアニメーション作品に登場するロボットなどをデザインする、メカニカルデザインという仕事を、日本において確立した大河原邦男。彼が手がけた「科学忍者隊ガッチャマン」「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」「機動戦士ガンダム」などのアニメ作品は、今もたくさんの人々に親しまれています。

この展覧会は、これまで門外不出とされ、そのほとんどが本邦初公開の400点以上に及ぶ作品を、7つの章に分けて紹介。大河原デザインの秘密に迫る、かつてない規模の、まさに「超」大河原邦男展です。



「機動戦士ガンダムII 哀・戦士編」B全期ポスター原画 1981 ©創造・サンライズ

■会期＝5月19日(日)まで

■観覧料＝一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650円(550)円、中学生以下無料

※()内は20人以上の団体割引料金

※同時開催展「いのちの色 美術に息づく植物 コレクション展I」(6月23日(日)まで)

◎休館日＝月曜(4月29日、5月6日は開館し、4月30日(火)、5月7日(火)に休館)

◎開館時間＝10時～18時(金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

世界も、自分も、変えるシゴト。JICA海外ボランティア平成25年度募集中開始!

JICAは、自分の持っている技術や経験を生かして開発途上国の発展に貢献したいと考えているボランティア精神に富んだ人を募集しています。募集期間中は各地で「体験談&説明会」を開催します。予約不要、参加無料、入退室自由です。迷っているなら、まず一歩!お気軽にご参加ください。

■募集期間＝4月1日(月)から5月13日(月)まで(当日消印有効)



見ることから始める国際協力!

JICA関西映画鑑賞会「バレンタイン一揆」

チョコレートの原料、カカオ豆を、どこで誰が作っているのかあなたは知っていますか?

ガーナで児童労働の問題と出会い、悩み、聞いた、日本の女の子たちのドキュメンタリー映画「バレンタイン一揆」を上映します。奮ってご参加ください。

■日時＝4月14日(日)13時30分から14時50分まで

■会場＝JICA関西

■参加費＝無料

※申し込み方法

お名前・所属・連絡先を明記の上、メールまたはFAXでお申し込みください。メールの場合、件名を「JICA関西映画鑑賞会「バレンタイン一揆」参加希望」としてください。



©2012 特定非営利活動法人 ACE

◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0384

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

いのちと健康を守る赤十字の活動にご協力ください

東日本大震災から2年がたちました。

日本赤十字社では、被災地の一日も早い復興・復興を願い、高齢者や障がい者の皆さまをはじめ、子どもたち、さらには仮設住宅等で生活されている多くの被災者の皆さまへの復興支援活動を続けています。

また、いつ起こるかもしれない大災害に備え、救護用資機材の整備、災害救護訓練の実施など、災害対応力の強化に努めています。

赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の活動資金に、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



東日本大震災の復興支援活動一きれいに整備された保健室(宮城県石巻市の小学校)

◎お問合せ先

日本赤十字社兵庫県支部 振興課

TEL 078-241-8921

パソコンから

赤十字 兵庫

検索

災害メモリアルKOBÉ 2013

1月12日(土)午後、人と防災未来センターにおいて、「災害メモリアルKOBÉ 2013」が開催されました。

災害メモリアルKOBÉは、次世代の育成、世代間交流による語り継ぎなどを通じて、市民の防災力を高めることを目的として開催しているもので、今年で8回目。今回は、「-1.17 3.11- つながる人 つながるまち」がテーマです。

前半は、小・中学生による作文発表。神戸市内の2つの学校で行われた特別授業を受けた児童・生徒による感想文の朗読です。昨年11月に神戸市立だいいち小学校5年生と神戸市立太田中学校2年生の児童・生徒に、コミュニティーラジオやまちづくり活動などで、阪神・淡路大震災の発生時からこれまで「つなげる活動」をしてこれた方に授業をしていただきました。児童・生徒は、当時の大変な体験や、人と人とのつながりや災害への備えの大切さなど、講師の語りを、それぞれの視点で受け止め、感想を発表しました。

次に、東日本大震災以降、ボランティアで避難所や仮設住宅においてコンサートを開き、コミュニティーづくりを支援されているシンガーソングライターの石田裕之氏によるスペシャルライブ。参加者の方は、阪神・淡路大震災や東日本大震災での体験談を挟みながらの演奏に、聴き入っていました。

スペシャルセッションでは、東日本大震災の被災地から神戸にやって来た岩手県立宮古工業高等学校と福島県立磐城高等学校の生徒による防災・減災に関する活動報告と、神戸から被災地支援に駆け付けた神戸市立神港高等学校生徒による現地での体験とそこで考えたことの報告がありました。その後、兵庫県立舞子高等学校の生徒の進行で、高校生による意見交換が行われました。

後半の部のパネルディスカッションでは、特別授業の講師を務めたバーナード・ファーレル氏、竹下士敦氏、河合節二氏、柴田大輔氏、コメンテーターとして神戸新聞論説委員の磯辺康子氏の5人に加え、スペシャルライブをしていただいた石田氏も飛び入り参加。1.17を経験した神戸は、東日本大震災の被災地と今後どのようにつながっていくのがよいのか、来るべき東海・東南海・南海地震に向けて、私たちはどのような備えをすべきかについて議論していただきました。

作文を発表した児童・生徒やその家族、学生、防災関係者、ボランティアなど約250人が、世代を超えた震災の語り継ぎの大切さについて深く思いをはせる機会となりました。



作文発表



スペシャルライブ (石田裕之氏)



スペシャルセッション



パネルディスカッション

ひょうご安全の日のつどい

阪神・淡路大震災から18年を迎える平成25年1月17日に、震災の経験と教訓を発信し、1.17を忘れずに語り継ぐため、「ひょうご安全の日のつどい」が開催されました。

センターの慰霊のモニュメント前では「1.17のつどい」が行われ、カリヨンの鐘にあわせて黙祷が捧げられました。

会場であるHAT神戸はメモリアルウォークの終点となっており、会場の南側に位置するなぎさ公園では防災啓発展示や防災訓練、ステージでのミニコンサート等が実施されました。

公園中央には炊き出しのブースが並び、うどん、豚汁、カレー、ぜんざい等がふるまわれました。

センター「友の会」では、阪神・淡路大震災被災者の団体「いきいきネットワーク」との協働で炊き出し大会に参加。友の会メンバーは、炊き出しブース内の「うどんコーナー」や「カレーコーナー」での配膳等を行いました。

この日は天候にも恵まれ、食材はすぐに完売。炊き出し大会は盛況のうちに終わりました。



1・17ひょうご安全の日宣言

阪神・淡路大震災から18年経った
私たちは日本と世界の多くの人たちに
地震を経験する前に この教訓を知ってもらいたい 使ってもらいたい
そのように願って 発信し続けてきた

災害は姿を変えて 私たちと社会を突然襲う
東日本大震災もそうだった
巨大な地震と津波は 私たちに恐怖をもたらし
多くの被災者と傷ついたコミュニティ そして荒ぶる国土を残して去った

1万9千名に及ぶ犠牲者 そのうち2千7百名は 行方不明のままだ
続いて起こった原子力発電所の事故では
いまだに多くの住民が ふるさとを追われたままだ

阪神・淡路大震災から 120回を超える被害地震が起こった
もう災害は 起こらないで欲しい
でも 南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生も心配だ
起これば未曾有の被害をもたらすが
その対策に時間がかかり 財源も必要だ

でも 一歩ずつ前進したい
減災の考えで 次なる災害に備えたい
それには災害文化をつくり 伝え そして備えて行動するしかない

伝えよう もっと伝えよう阪神・淡路大震災の教訓を
震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2013年1月17日
ひょうご安全の日推進県民会議



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

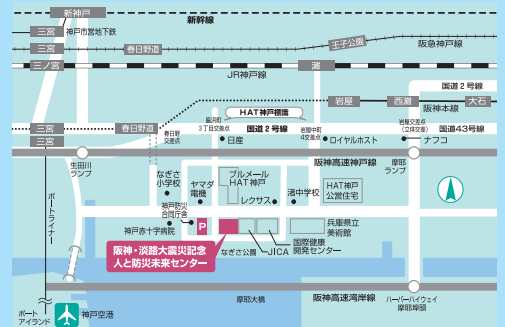
バス ・三宮駅から約15分

車 ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約/TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>



1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会



当機構が兵庫県、毎日新聞社と共催し、学校や地域で取り組む防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会が1月13日(日)に兵庫県公館で実施されました。

今回は全国から応募のあった111件の中から、東日本大震災の避難行動についてのアンケートを基に、「地震がきたら迷わず高台に逃げるべし」「命を優先し 何があっても もどらぬべし」「助け合い 人とのつながりを 大切にするべし」「万一に備え 防災グッズを準備しておくべし」「未来に向かって一歩一歩進むべし」の5つの提言をまとめた宮古市立鍛ヶ崎小学校がグランプリに選ばれ、合わせて29団体が受賞しました。

式典のオープニングとして、神戸市立西灘小学校6年生の「しあわせを運ぶ合唱団」が合唱を披露し、また、表彰式の後には、グランプリ、ぼうさい大賞、優秀賞の団体が、それぞれの活動を報告する発表を行いました。今回も、昨年に引き続き、東日本大震災被災地の各校の取り組みも多く発表され、参加者は熱心に聞き入っていました。

また、防災力強化県民運動ポスターコンクールの表彰も併せて実施され、県民会議会長賞を馬場聖矢さんと勝部真穂さん、人と防災未来センター長賞を野口健太さんと富山睦月さんがそれぞれ受賞しました。



受賞校

グランプリ

- 宮古市立鍛ヶ崎小学校(岩手県)

ぼうさい大賞

- 徳島市津田中学校(徳島県)
- 岩手県立宮古工業高等学校(岩手県)
- 岩手県立大学 学生ボランティアセンター(岩手県)

優秀賞

- 釜石市立釜石小学校(岩手県)
- 気仙沼市立階上中学校(宮城県)
- 福島県立磐城高等学校 天田地質部(福島県)

奨励賞

- 糸魚川市立根知小学校(新潟県)
- 女川町立女川第一中学校第2学年(宮城県)
- 印南町立印南中学校3年生「津波研究班」(和歌山県)
- 千葉県立東金特別支援学校(千葉県)

はばタン賞

- アトリエ太陽の子(兵庫県)
- 新潟県立柏崎工業高等学校(新潟県)
- 兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ(兵庫県)

だいいじょうぶ賞

- 高松市立太田南小学校 地域安全チーム「STみなみ」(香川県)
- 丸亀市立城辰小学校(香川県)
- 愛南町立内海中学校(愛媛県)

津波ぼうさい賞

- 美波町立木岐小学校(徳島県)
- 四万十町立興津小学校(高知県)
- 能登町立小木中学校(石川県)
- 千葉県立長生特別支援学校(千葉県)
- 兵庫県立家島高等学校(兵庫県)
- 徳島県立徳島科学技術高等学校 科技高防災クラブ(徳島県)

教科アイデア賞

- 愛南町立柏小学校(愛媛県)
- 静岡大学教育学部 藤井基貴研究室(静岡県)

継続こそ力賞

- 南島原市立大野木場小学校(長崎県)
- 高知市立愛宕中学校(高知県)
- 水の自遊人 しんすいせんたい アカザ隊(山口県)
- 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(CheRits)(京都府)

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください



Hem21NEWS
vol.38

平成25年3月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>